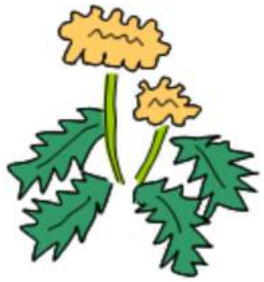
# たんぽぽ

NO.406
R3年5月1日
-発行-
〒869-1217
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
☎096-293-8100

## 「こんな時だからこそ…」

施設長　木下 昭二

新型コロナウィルスの影響により、感染症予防の対策を取るようになってから、優に1年が過ぎてしまいました。仕事関係の色々な研修会や会議が中止になったり、スタイルが変わってパソコンのオンラインを使ったリモート会議が導入されるようになっていたり、これまで年に数回集って情報交換会と称した飲み会を行っていた学生時代の友人達を含めた、人と逢う機会がめっきりなくなってしまったなぁ～と思っていた先日、ふとテレビから、「こんな時だから、手紙を書きませんか」という言葉が流れて来ました。その時は特に気に留める事もなかったのですが、少し時間が経った頃、また同じフレーズのCMが聴こえて来ました。

そもそも自分自身が筆不精で、手紙を書くという習慣が備わっていなかった事もあり、残念ながらここで紹介出来るような、「恋文を書いたあの時…」みたいな手紙にまつわる淡い思い出がある…という訳でもなく、最近では、相手の事を想い、その気持ちをのせてペン先を走らせ、自らの文章として紡ぐ言霊としてではなく、パソコンやメールといった活字によるやり取りが主流になっていた事を、反省し憂う自分がどこかにいたからこそ、その「手紙を書きませんか」というフレーズに耳を留めたのかもしれません。

「手紙」という括りからは、離れてしまうのかもしれませんが、私自身、支援者としての勤務を経て現職に就かせて頂いてから、保護者・ご家族の皆様に宛てた連絡帳を書く機会が殆どなくなり、淋しい思いをしている事も、今回この「手紙を書く」という題材を選んだ理由の1つのような気がします。

開設してしばらく経って、利用者さんの数が徐々に増えた頃、迎えに来られたご家族が連絡帳を読まれ、我が子がどんな風に一週間を過ごしたのかを楽しみにされている様子と、その書かれている内容の一言ひとことに一喜一憂しながら読まれている姿を想いながら、週末ごとに4冊の連絡帳をページいっぱいに書いていたあの頃を懐かしく思い出します。

そういった思い返しの中で、実際の手紙…となると、と考えていると、1年ほど前、同じ施設関係の大変お世話になっていた県外の施設長さんがご退職になられるというお知らせが届き、コロナ禍でお逢い出来ないので感謝の意をお伝えすべく、簡単ながら筆を取らせて頂いた事を思い出しました。我が事ながら、お世辞にも上手く書けた…とは言えませんが、たとえ上手く書けなくとも読み手に思いが少しでも伝われば、字のきれいやヘタは二の次でも良いのではないでしょうか。

近々の新型コロナウィルス感染者数の増加に伴い、再開していた利用者さんの帰宅を、4月は再度中止としました。

三気の里にも、文字を書ける利用者さんが何名かおられるので、「こんな時だからこそ」誰かに宛てて手紙を書いてみるのも良いのかもしれません。奇しくも5月9日（日）は母の日です。皆様もこれを機に、誰かに思いを馳せて手紙を書いてみませんか？

# 5月

「日々の積み重ね」

新型コロナウイルスの影響で、昨年度より利用者の方の生活が一変しました。世の中の状況も変わりました。お店に入る時には消毒、マスク着用、レジに並ぶときにはソーシャルディスタンス。それに付け加えて、レジ袋の有料化。そんな状況の中、毎週木曜日のローソンの移動販売で、消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンスが定着してきたので、1班はエコバックを使用するようにしました。最初、数名の利用者の方はエコバックごと、ゴミと一緒に捨てようとされていましたが、毎週使用することで、エコバックの使い方を理解されてきました。「日々の積み重ね」にローソンさんの協力は本当にありがたいと感謝しています。次に取り組みたいのは、ゴミの分別です。燃えるゴミ、ペットボトル、空き缶と分別して入れることが出来るように支援していきたいと思います。

新型コロナの影響で制限される事ばかりですが、この状況の中での日々の積み重ねで、今の社会ルールを理解し、定着できるように支援を提供していきたいと思います。自粛規制が解かれた際の、コンビニ店でエコバックを使用しての買い物が楽しみです。

支援員　八木　良江

「利用者の力を借りる」

2班には入所の利用者の方の他に、在宅で通所されている方が5名いらっしゃいます。在宅の利用者の方は、日々連絡ノートを通じて保護者の方への通所時のご様子や必要な情報の共有を図っています。大切なツールであり、支援員はその日の作業が終わる30分くらい前を目途に、協力し合って記入を進めます。書いたノートは利用者の方へ手渡し、自身のカバンへ入れることが利用者の方の役割です。しかし、日々の利用者の方の状況や作業の進捗によってはその対応に追われてしまい、ノートの手渡し忘れが発生してしまうことが2班の課題としてありました。渡し忘れ防止のため、支援員間で確認し合うことも考えました。しかし、敢えて利用者の方ご本人へもノートを提出する、持ち帰ることの意識付けを図りたく、名前とノートの絵を合わせたマグネットを作成し、作業部屋入口へ掲示しました。作成当初は、支援員と一緒に戸惑いながら行っていたマグネット移動も、3ヶ月経過した現在では、声かけのみでノートの出し入れと同時に自分のマグネットを所定の場所へ貼り付ける利用者の方の姿が見られています。支援員で全て解決することは簡単ですが、利用者の方の力を借りて日々の活動を充実させていく大切さを実感できる出来事でした。

支援員　杉本　安代

「得意なことを活かす」

新年度が始まり、あっという間に1か月が経ちました。数名の利用者の方と一緒に、3班が育てているほうれん草の収穫をしている時の事です。「収穫する」という目的を達成するために「どれを抜くか選ぶ・根元を持って抜く・コンテナに入れる・・・」など様々な過程が存在します。私がどういう風に収穫しようか、利用者の皆さんにどう伝えようか…と考えている傍らで、利用者の方は長年の経験から何をどうすれば良いか、しっかり理解し自らコンテナを取りに行き、畑の傍に構えて収穫準備万端。一つ一つ確認しながら、根元を持って引き抜き、次々に収穫されていきました。収穫作業後は、ほうれん草の傷んだところをハサミで切って袋に詰めるのですが、じっくり観察して仕分け作業に取り組まれていました。どの方もやる気を持って取り組まれている表情が、とても輝いて見えました。

三気の里では利用者の方は毎日作業を頑張られています。その中で、ただ作業をこなしていくのではなく、それぞれの利用者の方が得意なことを生かして輝ける毎日を、私たち支援員はこれからも支えていきたいと思います。

支援員　今福　夏希

「心に春を」

新年度がスタートし、1か月が経ちました。まだまだ新型コロナウイルスの影響で4班の皆さんが好きな外出が難しい状況の中、現在は午後の活動の一環として散歩を多く取り入れています。春になり三気の里の周りには、ご家族やスタッフの方々のおかげで色とりどりの花が咲いています。花が大好きなKさんは散歩に出るたびに「〇〇の花がきれいに咲いとりますね！」と嬉しそうに見られており、私が一緒に散歩に行けなかった日でも「〇〇の花が咲いてましたよ。」といつも教えてくださいます。

また今年は桜がきれいに咲いており、天気がいい日には散歩をした後に桜の木の下でおやつを食べることも出来ました。きれいな桜を見ながら食べるおやつはなんだか普段よりもおいしく感じます。利用者の皆さんも自然と笑顔になり、花を観たりお話をしたりたくさん写真を撮ったりしながら楽しまれています。そんな笑顔を見るたびに私自身も自然と笑顔になってしまいます。そういった笑顔の連鎖が少しでも増え、より利用者のみなさんが楽しく安全に過ごせるように、スタッフ一同工夫しながら活動を提供していけるよう頑張りたいと思います。

支援員　植野　希

「身体を動かして健康に」

新年度が始まり、早1か月が経ちました。朝晩はまだまだ冷えることがありますが、昼間は半袖で良いくらい暑い日が多くなってきました。寒暖差で衣類の調整や体調管理が難しい季節です。5班の皆さんはというと体調を崩すことなく毎日元気に作業をされています。Tさんは作業が始まる前や合間に体操をされることがあります。ラジオ体操の動画を流すと動画を見ながら一生懸命身体を動かされます。また、Zさんもストレッチをしながら、自分で運動をされています。私自身、運動不足なのでその光景をみて一緒に運動しなければという思いになります。

まだまだ県内・外でコロナウイルスの感染が広まっています。自粛生活はこれからもしばらく続くと思いますが、運動不足にならないよう5班の活動で体操や散歩を取り入れ、より健康に過ごしていけるように支援していきたいと思います。

支援員　西本　綾子

# 療育雑記

「歴史」

主任　佐藤和也

毎年、新年度に向けたスタッフ研修が行われます。研修における理事長の講話で、三気の里の歴史を記録したＤＶＤを鑑賞しました。ＤＶＤは、20周年記念、30周年記念、そして33周年を迎える現在までを記録したＤＶＤでした。

私は三気の里が開所して13年後に就職しました。それまでの歴史は先輩スタッフから口伝いで聞き、今回のような20周年記念のＤＶＤや過去の写真を観てその変化を感じることができました。

理事長講話でのＤＶＤを観て利用者の方の変化はもちろん、施設の変化、事業の拡大、スタッフの変化、自分自身の変化を感じ、さまざまな感情が沸き上がってきました。私が三気の里で働き始めた頃は利用者のパニックが多く、対応に追われた毎日で、トイレも常にトイレットペーパーが詰められ、溢れかえっている状態でした。その他行動障害の対応で常にスタッフは走り回っていたことを思い出しました。環境調整や見守りの徹底によって次第に利用者の行動が落ち着いていき、トイレも見違えるほど綺麗になっていきました。

平成18年度に施行された自立支援法の契約制度の導入により、それまでの利用者との関わりが大きく変わりました。ニックネームで呼び合う関係が一新して「〇〇さん」と呼ぶようになり、（スタッフも）お客様として接する姿勢へと変わってきました。

平成24年の虐待防止法施行に伴い、支援の在り方も大きく変わっていきました。支援と権利侵害の線引きが難しくなり、どこまでが支援なのか、どの程度の支援が許されるのか、どのような支援が望ましいのか悩み、葛藤していました。

その悩みや葛藤は現在も続いており、この先悩みや葛藤がなくなることはないと思っています（なくなる方が危険な気がします）。適切な支援の提供、エビデンスに基づいた支援、説明責任、それらを果たすために自己研鑽に努めています。

開所から33年、スタッフの入れ替わりもありました。退職理由は人それぞれですが、三気の里のスタッフはみんな情に厚かったように思います。以前は退勤後に食事しながら、またはお酒を飲みながら、支援や組織の発展について語り合っていましたが、時代の変化に伴い若いスタッフを飲みに誘うことも躊躇せざるをえない時代になってきたことや、新型コロナの影響で食事やお酒を飲みながら語り合うという機会は減ってきたように思います。もちろん、会議や勤務の合間等に語ることはできますが、良くも悪くも変わったなと思う出来事です。。

過去を振り返り、良くなったこと、改善が難しい課題、良くなったことに気付けていなかったことなど、この30年の間に多くの変化を繰り返して今に至っていると感じました。

また、施設の変化は時代背景や制度によって大きく変わっていっているのがよくわかります。

この先を見据えるうえで、時代を読む力や制度の理解は必須です。時代や制度にあった支援を行っていく必要があり、その為には常に知識や技術の向上そして自分の心を鍛えていく必要があります。

田ヶ谷雅夫著「福祉のこころ」に「自分の人間性を武器により幸福な状態変革していくのが使命」とありました。私自身、この20年で変化を繰り返し、多少は成長したと思いますが、一社会人としても福祉人としても未熟な状態である為、これからも自分の人間性を磨いていき、少しでも幸福な状態変革ができる人間になりたいと思いました。

〈二〇〇五年6月レクの写真〉

# はじめの一歩

「感情を満喫する」

支援員　中里　貴永

グループホームー（はじめ）には現在、男性利用者8名が入居されています。平日の日中はそれぞれの作業場へ出勤され、夕方から朝にかけての時間が、はじめでの生活になります。

私は昨年度から、はじめの夜間生活支援員として勤務させて頂いており、平日の夜間帯を利用者の方々と一緒に過ごしています。

共同生活を送る上で、はじめの利用者さんは様々な日課に沿って生活されています。その中の一つとして基本のスケジュールは、消灯21時、起床7時10分となっています。しかし、私自身もそうですが毎日をスケジュール通りに過ごせるとは限りません。21時以降に観たいテレビ番組がある、明日のイベントが気になって中々寝付けない、日中活動の興奮が治まらない等、様々な気持ちから利用者さんの入眠が遅くなる事や、その結果、起床時間にすぐに起きられない事もあります。

翌日の生活、特に日中の活動に支障がでないことが大前提ですが、私は「気持ちが動いている」ことが大事だと感じています。

同じことの繰り返しになりがちな日常生活の中、小さな変化に気付き、喜びや不安を感じ、それをしっかりと満喫できる利用者の皆さんは、私達に不足しているものを教えてくれているように思えるのです。

# 人権擁護委員会

「ともに」

課長　本田　誠

今年度の人権擁護委員会のテーマとして、「積極的権利擁護」の視点で活動を行っていきます。

積極的権利擁護の逆に「消極的権利擁護」があり、差別をしない、偏見を持たないなど、肯定的な内容ではなく、制限を用いた取り組みです（法律等）。この観点のみでは、重い空気が流れ、良い関わりには繋がりません。

また、利用者との関わりも、help（助ける）→support（支援）→assist（主人公）と日々変化しており、現在は「with（ともに）」です。ともに互いの人権を尊重し、擁護して行く為には、肯定的で明るい思考や取り組みが必要であると考えています。

自己決定、エンパワーメント、自立支援など、肯定的なワードを取り上げ、三気の里で実践できていること、できていないこと、どうすれば提供できるのかを考え、皆にとっての安心や楽しい暮らしに繋がるよう一年間を通して活動して行きます。

# 部長便り

「個人の感想です」

部長　松本　慎太郎

いつからだろうと思い出せないくらい何年も前からのことですが、歯みがきや洗濯などの汚れを落とす系のコマーシャルが、ほんのちょっと汚れが残る演出になり始めました。そして、コマーシャルに限りませんが「CM上の演出です」「後でスタッフが食べました」などの注釈がよく入るようになり、近頃は「気持ちのこと」「役者です」などの注釈も出てきています。

コンプライアンスとかクレームとか様々な理由があるからだろうと思いますが、苦笑したり、「そんなん分かっとるし」と腹を立てたりしたものです。しかし、テレビ・CMの映像や文字を見て誤解してしまう方、振り回されてしまう方は存在するのだろうと思います。分かりやすさ、理解という意味では必要なモノになっているのかもしれません。

また、コロナ禍において、「多くの方」の生活に支障をきたす事態となっていますが、ごくごく一部では感染対策のある世の中の方が少しは生活しやすくなったという方は少なからずいるのだろうと思います。そういった一部の方にも目を向ける必要があるのかもしれません。

「多くの方」という枠の中に含まれる私たちが、社会を良くしていくには先ずは理解していくことだと思っています。すべてを理解することは到底できませんが、汚れが残らない演出であっても、問題が起きにくい、または問題が起きても解決しやすい社会を作る努力をしていければと思います。

# 5月スケジュール

3(月)　映画鑑賞「パジャマdeシネマ
　　GHあそび隊「あんずの丘」
5(水)　あそび隊「スタンプラリー」
8(土)　イベント食、利用者自治会
14(金)　嘱託医来診
20(木)　誕生会
22(土)　帰宅（予定）
27(木)　三気の会　理事会
29(土)　発達障がいに関する講演会
　　(わっふる)
30(日)　かくたつ研修

毎週月曜日　訪問理容サービス
毎週木曜日　ローソン移動販売
BeTREE
＜営業時間＞8:00～18:00

betree314

# 看護師だより

## 「コロナ禍の通院」

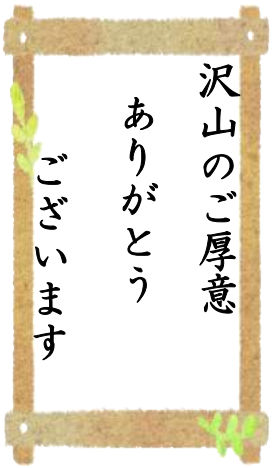
看護師　小﨑　栄之

私の業務の一つに利用者の方の病院への引率があります。４月上旬の3日間でも午前午後で皮膚科、整形外科、代謝内科、耳鼻科、胃腸科と5名の通院がありました。私は、利用者の方と時間を共有でき、会話をしながら病院に向かう時間を大切にしています。病院では、専門知識を持つ看護師の私が、症状を伝えることが出来ない利用者の方に代わり医師に伝えます。

診察時は安心して処置を受け、受診したことで体調が改善することが一番の喜びです。二〇二〇年1月から病院の外来は、いつ新型コロナの患者さんと遭遇してもおかしくない最も危険な場所になりました。病院内では「他患者との距離の確保」「マスク着用」「手指消毒」を徹底しています。

三気の里では職員一人一人が個人的に携帯用のアルコールスプレーを常に携帯して、利用者の方が何かを触ったらすぐ手指消毒を行い、目、鼻、口からの接触感染予防に留意しています。

利用者の方を絶対コロナに罹患させないという強い意識を持って通院引率しています。コロナ禍でも安全と健康に留意することで、利用者様の笑顔が見られることが私の喜びです。




**【寄付】**
三気の里家族会様

**【物品】**
岡本 則子様　小牧 博典様
水田 妙子様　清田 栄一様
松村 俊介様　田中 満子様
櫻木 勇夫様　井手上 昌子様
魚谷 秀文様　井上 優様
上野 育夫様　井口 チズヨ様
渡邉 正司様　道上 進様
亀﨑 幸久様　金森 保様
熊本県社会福祉協議会様

**【後援会】**
荻迫 和也様　興呂木 克昭様
山室 誠弥様　伏貫 直美様
大畠 照雄様　山下 ちづる様
江越 和信様　小屋野 ミチ子様
木本 博明様　田中 慶秀様
相良 勝郎様　井本 幸雄様
西村 栄子様　山内 守様
坂井 省英様　櫨本 貴美子様
中島 佐代様　赤星 一郎様
吉田 俊人様　井手上 昌子様
田中 基幹様　岡村 勉様
大堀 憲二様　清藤 由美子様
豊住 洋平様　松本 伴良様
白井 桂子様　井川 マリコ様
甲斐 真史様　田之上 あかね様
坂本 哲志様　青木 まり子様
魚谷 郁子様
八代学園様
ダイハツ大津様
ライスセンター井口様
㈲規工川工務店様
㈱グリーンロジスティクス様
Reフレッシュ 今村 義賴様

**【ボランティア】**
〈ブラッシング〉
前淵 隆子様